



2016. 10. 1

# 10月ようちえんだより

西神戸 YMCA 幼稚園

7月に日本で配信開始されたポケモンGOは先行して配信された諸外国の評判もあり配信当初から日本各地においても様々な社会現象を巻き起こしています。今までVR(Virtual Reality)仮想現実という周囲の状況にかかわらずデジタルで作られた世界で行っていたゲームから、AR(Augmented Reality)拡張現実というスマホの画面に映した周囲の風景に、デジタルの情報を重ねて表示し現実世界を拡張して楽しむゲームとなりました。現実世界を拡張するARならではの技術を活かして実際に街中を歩き回って楽しめたり、外出先で人と交流できたり、実際にある場所で架空のポケモンを発見、ゲットできたり、新しいリアリティーのある体験ができることで爆発的な人気になっているようです。こうした革新的な技術は、あらゆるものに応用することによって社会貢献ができると注目を集めています。

反面、このようなゲームの世界に浸りきりになることによって起こる悪影響も懸念されています。その一つとして、ゲームに多くの時間を費やすことによって他者との直接的な関わりが少なくなり、現実の社会生活で充実した人間関係を持ちえなくなっていくこと。また、現実社会の人間関係からの逃げ場所としてゲームの世界へ浸ってしまう状況もあるということです。特に成長期にある子どもたちにとっての影響は計り知れません。インターネットゲームはネットを通して一緒にゲームをする相手が存在します。インターネットにつないだゲームとソフトがあれば全国各地または世界各国からエントリーできます。子ども同士が友だちを誘うように「なにににちゃん遊ぼう」とゲーム入ってきて「いいよ」と承認され一緒にゲームを楽しむシステムです。一見そこには友だち関係があるかのように感じられますが、相手がどこの誰か、どのような環境にいるのか、年齢・性別さえ全くわからないというのがほとんどです。あくまでもゲームの中での相手というだけで、機械が作りだしたVRとほとんど変わりなく、人と人が交わってゲームをしているようですがその中に温もりや現実味が感じられないのです。同様に現代の戦争は無人の爆撃機を使用し操縦士は安全な場所で画面を通じて対象物にねらいを澄まして爆撃するという、VRゲームと同じ感覚で実際の戦争が行われている時代です。映画の「アメリカンスナイパー」や「ドローン・オブ・ウォー」はこのようなハイテク戦争や情報戦争の渦中にある兵士たちの人としての心の葛藤に焦点を当てて、現実味のないハイテク戦争に問題を投げかけています。もし、近い将来、人間関係が希薄に育った人物が増えていき、このような世界に足を踏み入れ、そして重要な判断をする立場になった時、そのようなことを想像するとはかりしれない危機感を覚えるのです。

人を愛する、信頼する、平和を願う気持ちは人間の最も基本的で大切な能力であると考えます。そしてこの能力は、親に愛される喜び、友だちと触れ合い遊ぶ楽しみ、自分自身のありのままを認めてもらえる安心感、そういった経験から育まれます。子どもは、子ども同士自由に関わっていく中で、受け入れられたり、ぶつかったりしながら人と関わる楽しさ面白さを実感していきます。幼稚園は子ども同士が生身のふれあいの中で自分を正直に表現し、またあるがままの他者を受け入れる経験ができる場所、そして、人間の関わりの楽しさ、面白さ、素晴らしさを実感出来る場所でありたいと願っています。

年主題 「平和をともに」

10月主題 「ふれあう」

聖句 “あなたがたは地の塩である”

(マタイによる福音書5章13節)